

# 岩井茂樹教授著作目録

## 編著書

- 『アジアの歴史と文化5』(共著) 同朋舎出版、一九九五年三月)
- 『データによる中國近代史』(共著) 有斐閣、一九九六年九月(同書韓國語版、申一燮譯、圖書出版新書苑、一九九九年九月)
- 『使琉球録解題および研究』(共著) 榕樹書林、一九九九年九月
- 『中國近世財政史の研究』京都大學學術出版會、二〇〇四年二月(同書中國語版『中國近代財政史研究』傅勇譯、范金民審校、社會科學文獻出版社、二〇一一年九月、『中國近世財政史研究』傅勇譯、范金民審校、江蘇人民出版社、二〇二〇年一〇月)
- 『中國近世社會の秩序形成』(編著) 京都大學人文科學研究所、二〇〇四年三月
- 『朝貢・海禁・互市——近世東アジアの貿易と秩序——』名古屋大學出版會、二〇二〇年二月

## 論文

- 『清代國家財政における中央と地方——酌撥制度を中心にして——』『東洋史研究』第四二卷第二號 一九八三年九月
- 『張居正財政の課題と方法』小野和子編『明末清初期の研究』京都大學人文科學研究所、一九八九年三月(同論文中國語版、『張居正的財政課題與方法』『日本中青年學者論中國史 宋元明清卷』上海古籍出版社、

一九九五年二月

- 『明清時期の商品生産をめぐって』谷川道雄編『戦後日本の中國史論争』河合文化教育研究所、一九九三年一月
- 『乾隆期の「大蒙古包宴」——アジア政治文化の「こま」——』河内良弘編『清朝治下の民族問題と國際關係』科學研究費補助金總合研究A研究成果報告書、一九九一年三月
- 『中國專制國家と財政』木村尚三郎・田中正俊他編『中世史講座 第六卷』學生社、一九九二年三月
- 『明末の集權と「治法」主義——考成法のゆくえ——』和田博徳教授古稀記念論集委員會編、汲古書院、一九九三年三月
- 『清代の戸部—度支部檔案について』永田英正編『中國出土文字資料の基礎的研究』科學研究費補助金總合研究A研究成果報告書、一九九三年三月
- 『徭役と財政のあいだ(一)——中國税・役制度の歴史的的理解にむけて——』『經濟經營論叢』第二八卷第四號、一九九四年三月
- 『徭役と財政のあいだ(二)——中國税・役制度の歴史的的理解にむけて——』『經濟經營論叢』第二九卷第一號、一九九四年六月
- 『徭役と財政のあいだ(三)——中國税・役制度の歴史的的理解にむけて——』『經濟經營論叢』第二九卷第二號、一九九四年九月
- 『徭役と財政のあいだ(四)——中國税・役制度の歴史的的理解にむけて——』

- 『經濟經營論叢』第二九卷第三號、一九九四年二月
- 「十六・十七世紀の中國邊境社會」小野和子編『明末清初の社會と文化』京都大學人文科學研究所、一九九六年三月
- 「公課負擔團體としての里甲と村」森正夫、他編『明清時代史の基本問題』汲古書院、一九九七年一〇月
- 「琉球冊封使關係資料情報化の課題」『沖繩の歴史情報研究』沖繩の歴史情報研究事務局、一九九八年八月
- 「清代の版圖順莊法とその周邊」『東方學報』京都第七二冊、二〇〇〇年三月
- 「嘉靖四十一年浙江嚴州府遂安縣十八都下一圖賦役黃冊殘本考」夫馬進編『中國明清地方檔案の研究』京都大學文學部、二〇〇〇年三月
- 「武進縣「實徵堂簿」と田賦徵收機構」夫馬進編『中國明清地方檔案の研究』京都大學文學部、二〇〇〇年三月
- 「明代「徽州府賦役全書」小考」『九八國際徽學學術討論會論文集』安徽大學出版社、二〇〇〇年五月
- 「武進縣の田土推收と城鄉關係」森時彥編『中國近代の都市と農村』京都大學人文科學研究所、二〇〇一年三月
- 「嘉靖四十一年浙江嚴州府遂安縣十八都下一圖賦役黃冊殘本」的發現與初步考析」『地方文獻學術研討會報告論文、漢學研究中心（臺北）、二〇〇二年一〇月
- 「清朝に轉送された對馬藩主宗義成の書契原本と一六三九年前後の北東アジア情勢」『東アジアにおける國際秩序と交流の歴史的研究』ニューズレターNo.1、二〇〇三年五月
- 「大清帝國と傳國の璽」『アジア遊學』第五六號、二〇〇三年一〇月
- 「清朝・朝鮮・對馬——一六三九年前後東北亞細亞形勢——」『二一世紀明清史研究方向的新探索』韓國明清史學會、二〇〇三年一月
- 「清末の外銷經費と地方經費」森時彥編『中國近代化の動態構造』京都大學人文科學研究所、二〇〇四年二月
- 「十六世紀中國における交易秩序の模索——互市の現實とその認識——」
- 岩井茂樹編『中國近世社會の秩序形成』京都大學人文科學研究所、二〇〇四年三月
- “China's Frontier Society in the Sixteenth and Seventeenth Centuries”, ACTA ASIATICA No. 88, 二〇〇五年一月
- 「明代中國の禮制霸權主義と東アジアの秩序」『東洋文化』第八五號、二〇〇五年三月（同論文中國語版、伍躍譯『明代中國の禮制霸權主義與東亞的國際秩序』『日本中國史研究年刊』二〇〇六年度、上海古籍出版社、二〇〇八年五月）
- 「徐葆光——琉球を訪れた康熙帝の使節」木田知生・檀上寬編『中國人物列傳』恆星出版、二〇〇五年一月
- 「比較都市社會史の行方——報告・討論全體を通じて——」井上徹・塚田孝編『東アジア近世都市における社會的結合』清文堂出版、二〇〇五年三月
- 「中國近代の財政問題と在華紡」森時彥編『在華紡と中國社會』京都大學學術出版會、二〇〇五年一月
- 「東アジアの一八世紀と「通商の時代」（公開シンポジウム「一八世紀の秩序問題 第一報告」）『史學雜誌』第一一四編第一二號、二〇〇五年二月
- 「三色の筆とXML七變化——校勘の技法——」『漢字と文化』第七號、二〇〇六年二月
- 「朝貢と互市——非「朝貢體制」論の試み——」『東アジアにおける國際秩序と交流の歴史的研究』ニューズレターNo.4、二〇〇六年三月
- 「明代における官僚の刑死と政治文化——楊繼盛（一五一六～一五五五）の事例——富谷至編『東アジアにおける法と習慣——死刑をめぐる諸問題（平成一四年度～平成一七年度 科學研究費補助金 基盤研究（A）研究成果報告書）』、二〇〇六年三月
- 「一六～一八世紀東アジアにおける國際商業と互市體制」『東アジア研究』第四六號、二〇〇六年一月

- 「清代の互市と『沈黙外交』」夫馬進編『中國東アジア外交交流史の研究』京都大學學術出版會、二〇〇七年三月
- 「王朝財政にみる集權と分散」共同シンポジウム「東アジア文明の歴史的特質」報告集、二〇〇七年三月
- 〔嘉靖四十一年浙江嚴州府遂安縣十八都下一圖賦役黃冊殘本〕的發現與初步考析』『日本東方學』第一輯、中華書局、二〇〇七年八月
- 「十八世紀前半東アジアの海防と通商——信牌問題と南洋海禁案から——」大阪市立大學東洋史論叢 別冊特集號「文獻資料學の新たな可能性③」、二〇〇七年二月
- 「宋代以降の死刑の諸相と法文化」富谷至編『東アジアの死刑』京都大學學術出版會、二〇〇八年二月（同論文英語版『The Death Penalty and Legal Culture in Early Modern China』Iaru Tomiya ed. *Capital Punishment in East Asia*, Kyoto University Press、二〇一二年二月）
- 「漢人と中國にとつての清朝『マンジュ』岡田英弘編『清朝とは何か』（別冊『環』一六）藤原書店、二〇〇九年五月
- 「中華帝國財政の近代化」シリーズ二〇世紀中國史 第一卷』東京大學出版會、二〇〇九年七月
- 「廣州與長崎 清廷透視中的互市與海外華人」Evert Groenendijk, Cynthia Valle, Leonard Bulussé, *Carbon and Nagasaki Compared 1730-1830 Dutch, Chinese, Japanese Relations*, Institute for the History of European Expansion, Leiden、二〇〇九年二月
- 「帝國と互市——一六一八世紀東アジアの通交」籠谷直人・脇村孝平編『帝國とネットワーク——長期の一九世紀』世界思想社、二〇〇九年一月
- 「元代行政訴訟と裁判文書——『元典章』附鈔案牘「都省通例」を素材として——』『東方學報』京都第八五冊、二〇一〇年三月（同論文中國語版、王旭東譯「元代行政訴訟與審判文書——以『元典章』附鈔案牘『都省通例』爲材料」『中國古代法律文獻研究』第五輯、社會科學文獻出版社、二〇一一年一月）
- 「華夷變態」後の國際關係 6 『近世的世界の成熟』吉川弘文館、二〇一〇年一月（同論文英語版、tr. by Joshua A. Fogel, International Society after "The Transformation from Civilized to Barbarian," *Sino-Japanese Studies*, Vol. 19、二〇一二年四月）
- 「朝貢と互市」東アジア近現代通史 1 東アジア世界の近代 19世紀』岩波書店、二〇一〇年二月
- 「清代中期の國際交易と海防——信牌問題と南洋海禁案から——」井上徹編『海域交流と政治權力の對應』（東アジア海域叢書 2）汲古書院、二〇一一年二月
- 「午門廷杖考——明代朝政における暴力と儀禮——」富谷至編『東アジアにおける儀禮と刑罰』二〇一一年三月
- 「午門廷杖考——私刑から皇帝儀禮へ——」富谷至編『東アジアにおける儀禮と刑罰』科學研究費基盤研究（S）「東アジアにおける儀禮と刑罰」研究組織、二〇一一年三月
- 「清朝の國家、商人和海外華人——關於信牌問題和南洋海禁案』『日本東方學』第二輯、中華書局、二〇一二年三月
- 「元明清公文書における引用終端語について」三木聰編『宋—清代の政治と社會』汲古書院、二〇一七年七月

翻譯

- ジェローム・チェン『軍神政權』（共譯）、岩波書店、一九八四年一月
- 張繼和「最後の宦官—小徳張」（譯注・解説）、朝日新聞社、一九九一年九月）
- 金沖及主編『周恩來傳』上、中、下（共譯）阿吡社、一九九二年八月—一九九三年二月
- 章開沅「辛亥革命研究の三十年」（上）（下）『東亞』一九五—一九六、霞山會、一九八三年七月—八月

湯志鈞『章太炎『佛學手稿』のことなど——島田慶次先生を追悼する(上)』(下)『東方』二〇〇二年四月號、五月號  
 范金民『清代蘇州市文化繁榮の實寫——「姑蘇繁華圖」——』『都市文化研究』二號、二〇〇三年九月

書評

小山正明『明清社會經濟史研究』『法制史研究』第四三號、一九九四年三月  
 岸本美緒『明清交替と江南社會』『歴史學研究』七五二號、二〇〇一年八月  
 山本英史編『傳統中國の地域像』『史學』七一、二〇〇一年二月

その他

「康熙帝と雍正帝——清朝の異民族支配」『週刊朝日百科 日本の歴史七』七、一九八七年一〇月  
 「一九八八年の歴史學界 明・清——回顧と展望——」『史學雜誌』九八、五、一九八九年五月  
 「北京の街」『月刊しにか』三三三、一九九二年三月  
 「清朝を知るための十二のキーワード」『季刊墨スペシヤル』第三三號、一九九二年一〇月  
 「英雄ヌルハチ」『歴史を讀みなおす 四・環日本海と環シナ海』朝日新聞社、一九九六年一月  
 「騎馬民族にとつての長城」『月刊しにか』八一、一九九七年二月  
 「解説」堀川哲男『林則徐——清末の官僚とアヘン戦争——』中央公論社、一九九七年四月  
 「中國に鐵道は必要か——近代中國の社會と論争——」『月刊しにか』八一、四、一九九七年四月  
 「ある宦官の生涯——宦官小徳張略傳——」『月刊しにか』一一一、二〇〇〇年一月  
 「殺人マニア・永樂帝」『月刊しにか』二二八、二〇〇一年八月

「東アジアの近世(世界史)」『知恵蔵二〇〇二』朝日新聞社、二〇〇二年一月

「北京・都市と環境(講演録)」『人文』四九、二〇〇二年三月

「明代「嘉靖四十一年賦役黃冊」の語るもの(講演録)」『人文』四九、二〇〇二年三月

コメント・濱下武志「海域史から見た東方學」『廿一世紀の東方學』京都大學人文科學研究所、二〇〇二年三月

「會讀・電子テキスト・XML」『漢字と情報』五、二〇〇二年一〇月

解説・定宜庄「清代北京城内の八旗鰥夫」井上徹・塚田孝編『東アジア近世都市における社會的結合』清文堂出版、二〇〇五年三月

地籍と戸籍と徵稅(國際ワークショップ「近代東アジア土地調査事業研究」コメント)『近代東アジア土地調査事業研究ニューズレター』第二號、二〇〇七年三月

「文獻學とXML關連技術——具體的な應用例——」『二〇〇五年度東アジア人文情報學サマナー報告書』京都大學人文科學研究所、二〇〇五年一月

「Developments in Trade and Trade Theory in the Ming and Ching」  
*Transactions of the International Conference of Eastern Studies*, No. LIH  
 2007、二〇〇八年一月

「太平天國の亂」岡田英弘編『清朝とは何か』(別冊『環』一六)藤原書店、二〇〇九年五月

「萬斯同と劉猷廷―書齋派とフィールドワーク派の協調」『京大廣報』六八一號、二〇〇二年九月

「受賞のことは…新たな歴史理解の枠組みを求めて」『第六三回 日經・經濟圖書文化賞 書評・受賞のことは』日本經濟新聞社・日本經濟研究センター、二〇二〇年十一月

「維正之供」再考』『人文』六八、二〇二一年一月